



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年9月20日発行(毎月1回20日発行)

ふるさとたより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

Sep

NO.28

9

Pick up

夏の思い出と秋の入り口に…

各地で行われた夏のイベントと
ふるさとの伝統行事を守り続ける人々



今月の子どもたち

沼ノ内子ども獅子舞
(左から)

鈴木太陽くん(豊間小学校6年生)
有働凜太郎くん(豊間小学校5年生)
鈴木大翔くん(藤間中学校1年生)



久之浜・大久



四倉



平



小名浜



勿来

久之浜のハッタチアザミ
夏休みの思い出

いわき蟹洗温泉が営業再開
道の駅でふれあい広場開催

ふるさとの星 感謝の暖簾
獅子舞の夏(沼ノ内・豊間)

伝統とまちへの思い(江名)
海に触れよう「磯の観察会」

岩間地区防災緑地WS 最終回
子どもたちの夏の思い出



数少ない自生地に咲く野生のハッタチアザミ
(撮影:昨年10月)



久之浜中学校に移植され、かわいい花を咲かせました(撮影:昨年10月)

波立で発見された新種

平成20年9月、山内幹夫さんは波立海岸で見慣れないアザミの花を見つけました。日本全国で140種類以上が確認されているというアザミ。図鑑で調べても、アザミの名はわかりません。山内さんは、福島県植物研究会を経由し、国立科学博物館植物研究部の門田裕一博士にアザミの写真と標本を送りました。「一目で新種であると直感した」と門田博士。翌年の開花時期には、現地調

査を行いました。そして様々なアザミと比較検討した結果、日本固有種であること、波立海岸付近2カ所にのみ自生していることが判明。「ハッタチアザミ」と名付けられました。

津波で流出。そして…

震災で多くの犠牲と被害をもたらした大津波は、ハッタチアザミをも襲い、海岸付近の自生地は消滅し、絶滅が心配されました。ところが、文部科学省理科支援員である吉岡榮一東町区長によるその後の調査



ハッタチアザミをご存知ですか?

久之浜に咲く花の物語



見た目は違っても同じハッタチアザミ。葉に大きく切れ込みがあり、花におしべとめしべを持つもの(左)。丸みを帯びた葉を持ち、めしべだけを持つもの(右)。なぜそのように進化したか、今多くの謎に包まれています

で、内陸部に数カ所の自生地が確認されました。ハッタチアザミは生き残っていたのです。

国道6号バイパス工事現場の近くにも自生地を確認。工事の進行によって一つの自生地が失われる心配から、発見された7株は久之浜中の中庭に移植されました。また地区の住民による保護活動も広がりを見せています。昨年7月、JR久ノ浜駅前に新たな花壇が作られた際、吉岡さんが種か

本のアザミの秘密では、日本ら育てたハッタチアザミが久之浜町婦人会によつて移植されました。この1年で大きく成長し、7月下旬から花を咲かせ、多くの人の目を楽しませています。そして、東京上野の国立科学博物館で現在開催中のアザミの秘密では、日本



駅前花壇を訪れた、左から吉原二六区長協議会会長、吉岡さん、林弘美智久之浜・大久支所長

に育つ多様なアザミが紹介され、その中でハッタチアザミの研究成果も展示されています。自然の脅威に自生地を失いながら、多くの人の助けを受け、新たな場所に根付くハッタチアザミ。今も発見地となつた波立海岸への道は封鎖されています。地区のみなさんにより保護育成されているハッタチアザミが、元の自生地で花咲く日が早く来ることを祈ります。



地区のみなさんに吉岡さんからハッタチアザミについて説明がありました(6月「ふるさと再発見あるこう会」にて)



久之浜中体育館で行われた原子力災害図上訓練。「情報伝達」と「災害時要援護者」にテーマをしづり図上訓練が行われました

原子力災害図上訓練

福島第二原発の単独事故を想定した、原子力災害図上訓練が久之浜中学校で行われました。地区的主防災会、消防団や民生児童委員など参加者は85名。災害時要援護者の避難支援など、地域の課題と今後の取り組みについて活発な意見を交わしました。



▲総合防災訓練のテーマは「実践的訓練による災害対応力の強化」



▶久之浜町婦人会、婦人消防クラブによる炊き出し訓練や初期消火訓練、AEDを使った心肺蘇生訓練なども行われました

8月31日、午前8時半。各所一斉にサイレンが鳴り響き、防災行政無線から避難の呼びかけが流れました。地区全休で参加者は690名。津波避難場所などをめざし歩く姿が見られました。

市総合防災訓練の実施



未統地区の防災集団移転団地で行われている地盤改良工事現場で見学会が開かれました



南側が4m程かさ上げされた災害公営住宅の造成地では、重機による工事が進んでいます



久之浜海岸では、海岸の改修作業と海岸堤防のかさ上げ工事が進んでいます

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年8月28日(天候:晴れ)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172 (シンチレーションサーベイメーター)

| 測定ポイント | 地上 1cm | 地上 100cm |
|-----------------|-----------|-------------|
| 田之網(田之網集会所) | 0.11 | 0.11 |
| 南町(旧道沿い中央部) | 0.11 | 0.09 |
| 中町(旧道高木屋旅館付近) | 0.10 | 0.10 |
| 北町(久之浜駅前) | 0.18 | 0.17 |
| 東町(旧久之浜漁協前) | 0.15 | 0.13 |
| 西町1区(西町公園付近) | 0.19 | 0.17 |
| 西町2区(久之浜一小正門付近) | 0.21 | 0.20 |
| 金ヶ沢(鹿野付近) | 0.20 | 0.20 |
| 未統(未統駅前) | 0.26 | 0.20 |
| 大久(大久公民館付近) | 0.21 | 0.19 |
| 筒木原(久之浜二小西門付近) | 0.15 | 0.16 |
| 小久(町田橋付近) | 0.17 | 0.17 |
| 小山田(小山田集会所付近) | 0.17 | 0.18 |

単位はすべて $\mu\text{sv}/\text{h}$

*(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

8月8日、市原子力災害対策課から久之浜・大久地区で実施されている除染についての説明が行われました。

地区全戸を対象に始まった除染作業も未統、金ヶ沢、小山田でほぼ完了。現在、筒木原を含む大久地区、そして久之浜での除染作業が進んでいます。

説明会では未統の北部衛生センター内と小山田の2ヵ所の仮置き場の除染廃棄物の搬入実績と現在造成や契約が進んでいる他の仮置き場候補地について話しがありました。仮置き場が設

8月8日、市原子力災害対策課から久之浜・大久地区で実施されている除染についての説明が行われました。

最後に、現在330人体制で除染が進められ、来年3月までの久之浜・大久地区全体での除染作業終了が見込まれるとの報告がありました。

今後、除染が進み最終的に発生する廃棄物の分量次第では、さらなる仮置き場が必要となる場合も考えられるとの説明がありました。

最後に、現在330人体制で除染が進められ、来年3月までの久之浜・大久地区全体での除染作業終了が見込まれるとの報告がありました。

8月14日、久之浜・大久地区の新益精靈、戦没者英靈、震災犠牲者の冥福を祈る、合同供養祭が久之浜小体育館で行われました。

6名の僧侶による読経供養が行われ、参列者は焼香し静かに手を合わせていました。供養祭終了後「久之浜・大久自安我樂繼承会」がじやんがら念佛踊りを奉納し、鎮魂の祈りを捧げました。

支所および公民館の解体

久之浜町内の防災拠点施設(津波避難ビル)建設に向け久之浜・大久支所と久之浜公民館が解体されました。新たに建設されるビルは、地上4階建て、平成27年度供用開始予定です。

合同供養祭終了後、じやんがら念佛踊りが奉納されました

第48回

合同供養祭の開催

7月28日



第一幼稚園夏祭り

平第一幼稚園で開かれた久之浜第一幼稚園の夏祭り。出店が並ぶ園庭で盆踊りも行われました



久之浜・大久
夏の思い出
7月25日
夏の大収穫祭

久之浜保育所の夏祭り。久之浜一小の児童クラブのメンバーと一緒に「おうとうと久之浜」を元気に踊りました



8月4日
江之網地区七夕飾り

石川町での農業体験。ジャガイモやかぼちゃなどの収穫の後、地区の方や町長も参加して交流会が開かれました



お菓子袋やプリンの空き容器などを再利用した笹飾り45本。江之網の家々の玄関先に飾られました

幸い温泉施設の命とも言うべき源泉は無事だったため、今振り返ります。

「建物の1階部分は水没、屋内風呂は浴槽こそ無事だったものの、窓ガラスが割れて天井が落下したほか、地下の機械室も全滅しました」と支配人の木村秀史さんは、当時を振り返ります。

太平洋を臨みながら温泉や食事を楽しめる同施設は、震災による津波で大きな被害が出了ました。

施設に大きな被害も源泉は枯れず

太平洋を臨みながら温泉や食事を楽しめる同施設は、震災による津波で大きな被害が出了ました。

原発事故の影響を考慮して海水露天風呂を源泉から引いた温泉に変更するなどして、7月16日に再オープンにこぎつけました。

当日はかつての常連客もたくさん訪れて、顔なじみの客と久しぶりの再会を喜び合う場にもなったそうです。

7月中には日帰り客限定で営業していましたが、現在は宿泊と宴会も受け付け、震災前の状態に戻りつつあります。

「再開したことを探つてもらひ、お客様が戻つて来るまでは、もう少し時間がかかりそうです。まずは一步二歩、少しずつ前に進んでいけたらと思つています」。道の駅と並ぶ観光施設の再開は、この夏、町を活氣づける明るいニュースとなりました。

太平洋を一望する露天風呂。営業再開後は、源泉から引いたお湯を張っています

年3月に営業再開が決定し、施設の復旧工事は同4月からスタート。

また来年以降、地元の商店会連合会と連携して、蟹洗温泉の利用者が四倉地区の商店街を利用してもらえるような周遊バスの導入も検討中。再オープンの相乗効果で、地区的さらなる活性化も期待されています。



再オープンしたいわき蟹洗温泉。四倉を代表する観光施設のひとつとして、大きな期待が寄せられます

津波被害を乗り越えて待望の営業再開

太平洋健康センター いわき蟹洗温泉

地元商店街と連携 周遊バスを運行予定

施設の休業中は、関連会社に配属されていた木村さん。「ようやくここに戻れて嬉しい。正直、2年半のブランクは大きいですし、震災前は双葉郡のお客さまも多かったので、その分をカバーして売り上げを伸ばさなければいけません」と意気込みます。

海に隣接する施設は、津波のリスクも高いことを痛感させられた今回の震災。「従業員にはその意識を徹底させて、津波を想定した避難訓練をやりたいですね」と震災を教訓にした危機管理にも力を入れます。



海に面したロビーで取材に応じる木村支配人。施設の集客だけでなく、四倉の復興と活性化にも意欲的です



一次避難場所のひとつ、海嶽寺には1区、2区、3区などの住民が集まりました

四倉高と大浦小(写真)の各体育館での配布訓練で、飲料水や乾パンを受け取る参加者

8/31 市総合防災訓練で津波を想定した避難訓練実施

昨年の四倉地区、仁井田地区に加えて、今年は細谷地区の住民も初めて参加しました。午前8時半に防災無線のサイレンが鳴ると、15カ所の一次避難場所に住民1、266名が集まりました。その後、体調などを考慮して、移動出来る住民が二次避難所の四倉高体育館と大浦小体育館に向かいました。

各体育館では非常時用備蓄品の配布訓練が行われた後、消防職員による防災訓練講評がありました。

鎮魂と復興を願う 花火大会開催

夏の風物詩「四倉鎮魂、復興花火大会」が8月17日、四倉海岸で開かれました。今回は四倉地区行政嘱託員(区長)協議会が主体となって、実行委員会を



開会式で、海に向かって静かに黙とうする来場者

立ち上げての開催です。
開会式では、来場者が震災の犠牲者に黙祷を捧げた後、じやんがら念佛踊りやよさこい踊りが披露されました。

午後8時に打ち上げが始まり、鎮魂と復興を願う約3,000発の花火が次々に夜空に大輪の華を咲かせました。



打ち上げられた花火に大きな声援と拍手が送られました

道の駅よつくら港で ふれあい広場開催

8月10、11日の両日、施設のリニューアル1周年を記念し「なつやすみ 親子であそぼうふれあい広場」が開かれました。

や海の生き物に触れるタッチングブースなどが設けられ、バーベキューや巨大流しそうめんを楽しむ家族連れで終日賑わいました。

ステージでは大声コンテストやバンド演奏などがあり、11日夜は、交流館2階で女優の音無美紀子さんが歌声喫茶を開き、来場者と交流を深めました。



「青い山脈」「いつでも夢を」などの名曲を来場者と一緒に歌う音無さん



小さな手で粘土をこねて湯飲み茶碗や菓子皿など、世界にひとつだけの陶器が出来ました



初めて包丁を持つ子がほとんどで、手伝つてもらいながら慎重にそばを切り分けます

楽しみながら家庭教育の大切さ学ぶ

四倉公民館主催の「よつくら家庭教育学級」。四倉第一幼稚園の園児と保護者が対象で、親子のふれあいを通して楽しむながら家庭教育の大切さを考える事業です。1学期は大堀相馬馬焼の窯元である小野田利治さんによる陶芸教室と、四倉そば塾代表の鈴木邦彦さんと会員が指導するそば打ち体験教室がありました。2学期もさまざまな活動を予定しています。

たくさんの出店が並び、商店街に約20年ぶりに盆踊りが復活。浴衣姿で踊る参加者が祭りに花を添えました。

4日

仲町ホコ天ブーラリー



18日 上仁井田諏訪神社 夏祭り

輪投げコーナーに子どもたちが行列を作り、ステージではカラオケ大会、地元のフラダンス教室の発表もありました。



4日

四倉点描 8月、過ぎ行く夏を惜しんで



24日 楽寿荘 夏祭り

会場には出店が軒を連ね、じゃんがらやフラダンスなどが披露されたほか、盆踊りやいわき踊りを楽しみました。



6日

夏休み体験教室

四倉公民館で開かれた「にここものづくり」では、小1～3年生は夙づくり、4～6年生はパンづくりに挑戦。

ふるさとの星

感謝を暖簾に込めて

豊間地区の県道沿い。ちりめん暖簾が目印のお店が馬目和子さんが営む、きものと和製の店〈ほうせん〉。開業は平成12年。徐々に顧客も増え経営が軌道に乗りはじめた時、あの震災に遭遇しました。用事を終えた帰路、平にいた和子さんは大混乱のなか、急いで豊間の実家に戻ると20分後に津波が押し寄せてきました。家にいた母とともに、水に浸かりながらなんとか避難し無事でした。幸いなことに店は津波に流されることはありませんでしたが、商品の一部は水に浸か

り、泥が店内に流れこんでいました。その後「迎える側として、続けることが地元の復興になるのでは」と考えた和子さんは、店の再開を決意。平工業高校での避難生活を送りながらもボランティアの方々の協力のもと、店の片付けを進めました。そして、一昨年の秋に店を再開することができました。

アの方々への感謝を忘れず、まちの復興に貢献できれば」と願いながら今日も暖簾を出します。



プロフィール

昭和44年いわき生まれ。平成元年、磐城女子高校卒。平成3年、跡見学園短期大学卒。会社員を経て実家コンビニ店を手伝い、平成12年(ほうせん)を開業



〒970-0224
いわき市平豊間字下町96
☎0246-38-2966
定休日／日曜日



▲和風の落ち着いた店内には手作り作品が展示され、心が和む空間になっています



▲震災後、多くのボランティアの方々が実家の片付けを手伝ってくれた



▼和製で自作したオリジナル作品。和材ならではのやさしさがあります

豊間で 慰靈じゃんがら

8月14日、ふるさと豊間復興協議会事務所駐車場で、東日本大震災豊間地区殉難者の慰靈として「小名浜じゃんがら踊友会」のメンバーがじゃんがらを奉納しました。

鈴木徳夫区長は「震災から時間も過ぎている、お盆は特別な慰靈祭ではなく、やはりじゃんがらだろう」と話していました。お盆のまちには鉦と太鼓の音が響きわたりました。



カンボジアからの留学生名古屋大学院生のピセットさん

NPO法人パワーオブジャパン 賽の河原復旧ボランティア



◀今回の最年少、森田瑞化さん(中1・左)と磯野笑美里さん(高1・右)

沼ノ内にある賽の河原で8月24日、NPO法人パワーオブジャパンが賽の河原復旧作業を行いました。この日、関東を中心に行なった50名が参加、遠くは関西、北陸、カンボジアからの留学生も加わりました。この場所での作業は21回目、運び出されたお地蔵さまは380体、土砂は約20トンを超えます。狭い洞窟内のため、重機も入ることができず、すべて人力による作業のうえ、交通費をかけて毎回ボランティアで通つ



▲今回のお届けはパワーオブジャパンの炊き出しで、なみえ焼きそば、うにご飯が振る舞われました



▲作業を終え記念撮影。みんないい顔しています

地域を彩る夏祭り

第15回沼ノ内夏祭り（沼ノ内区、同実行委員会主催）が8月17日に沼ノ内第一公園で行われました。



地区の復興は獅子舞から



豊間地区の獅子舞が、8月24、25日の豊間諏訪神社の秋の例大祭にて披露されました。

神社総代会と豊間地区とで町をあげて

豊漁豊作祈り奉納される360年の歴史ある獅子舞です。

町をお盆の前にきれいに



8月3日、薄磯地区で「薄磯クリーンア

舞手の多くは青年会OBを中心としたメンバード代々受け継がれており、中には親子で参加した舞手もいました。

盆明けから

豊間公民館で練習を重ねて

きました。両日たくさんの見物客が訪れ、震災前の町の賑わいが戻っていました。

薄磯区からお知らせ

薄磯復興協議会事務所は9月から毎週水曜日が定休日となります。

地域伝統の継承

長から「震災から約2年半が経過しました。まだまだ課題はたくさんあります。でも楽しんでください」とあいさつ。盆踊りや地元出身デュオ・かざみどりや紅晴美さんの歌謡ショーなど

で盛り上りました。会場は婦人会や子ども会の出店で賑わいました。最後には花火も打ち上げられ夏の夜空を染めました。

復興へ向けた動き

3年目に牡獅子を舞うと踊り手から卒業して、次の代に引き継がれてきます。

今年は小学5年から中学1年生のメンバーでした。夏休みの約1ヶ月沼ノ内の公民館で青年会やOBの指導のもと練習を重ねてきました。今年も宵祭りは無く本祭りのみが8月25日に開催されました。諏訪神社の境内や町内で歓声が上がり、子どもたちの夏がまた一つ、終わりを告げました。

沼ノ内の獅子舞は小学生から中学生で舞う地域の伝統芸能です。1年目に牝獅子、2年目に中獅子、

3年目に牡獅子を舞ふるさと豊間復興協議会（鈴木徳夫会長）は8月6日に「住民ワークショップによる防災緑地づくり提言」を県いわき建設事務所に提出しました。

提言書は、豊間支援・東京都立門家グループ（代表：東京都立大学高見澤邦郎名誉教授）支援のもと、同協議会が作成したもの。内容は次のとおりで、全4回に渡り防災緑地ワークショップで話し合われた住民の多くの思いが汲み上げられています。

津波避難訓練

8月31日、いわき市を震度6強の揺れが襲い大津波警報が出されたという想定で大規模な防災訓練が行われました。午前8時半、沿岸部で防災無線のサイレンを合図に始まり、参加住民が高台に歩いて避難しました。



(1)海辺の魅力を高める編
みんなが集まって楽しめる広場や海岸の景観を楽しむ展望箇所、子どもの遊び場、祭りなど伝統行事に使用出来る階段・スロープの整備などの4提言

(2)緑、花、実の物語編
四季を楽しめる花木等の植樹、生産収穫できる生活緑地スペース確保、現在の里山からのDNA（遺伝子）の継承、海辺の特有種や希少種の保護などの4提言

(3)植えて育てる、参加と実践編
生活緑地や四季の花木などの管理は住民で行う、市内外、全国の人に呼び掛け、苗木育てなどに参加してもらい、地区と全国の多くの人との絆づくりを

図るなどの2提言

以上の10の提言を住民の声として提出しました。豊間地区の一日も早い復興再生が進み、早期に安心して住める環境になることを期待しています。

豊間地区防災緑地ワークショップ提言書提出へ

暑い中の作業でしたがが、みなさんが汗をかきながらも真剣に作業をする姿からは、ふるさとを愛する気持ちが伝わってきました。

DNA（遺伝子）の継承、海辺の特有種や希少種の保護などの管理は住民で行う、市内外、全国の人に呼び掛け、苗木育てなどに参加してもらい、地区と



避難所で区役員から震災当時の話を交えた防災講話を真剣な表情で聞く学生ボランティア

**80年ぶりに江名の住民による
舞いが復活**

約300～400年前から始まつたと伝えられている江名の獅子舞。海上安全・大漁満



下高久の戸田修二さんの指導で、7月23日から週2日練習し、「おかざき」という2分ほどの舞いを覚えました

足・五穀豊穣などを祈願し、漁業に従事する地区の青年により舞われてきましたが、約80年前に獅子祭りと出漁の時期が重なつてしまい、交流のあった下高久の青年会に獅子舞を依頼し、減つてしまつていている今だからこそ、まちの伝統行事を自分たちの手で残していくと、神社総代や江名地区まちづくり協議会などが中心となり「江名諷成」江名小学校の子どもたちに声をかけ5、6年生の計4名

**伝統の継承と
まちの発展のために**

江名で石材店を営む星野秀和さんと長男の秀太郎さんは、親子でまちの青年会かじの葉会に入つており、諷訪神社の例大祭や歳旦祭、地域の盆踊り

江名区主催 盆踊り大会 8/14



▲真福寺の永崎亮寛住職により法要が行われました



▼盆踊りには、たくさんの住民が参加しました



▲御詠歌の合唱と手踊り(真福寺御詠歌愛好家)



大獅子、中獅子、雌獅子からなる3匹獅子を6年生の矢吹蘭ちゃん、5年生の柴崎健士郎くん、鈴木美咲ちゃん、山野辺千尋ちゃんが担当しました。笛も地元の江名守康さん、坂本政男さん、豪谷英雄さんが吹き、地区の人々による80年ぶりの獅子舞に住民は大喜びでした

5年後も10年後もその先も まちの伝統行事が途絶えないように

若い世代が受け継ぐ 伝統とまちへの熱い思い

江名

り大会など江名の伝統行事に参加しています。

約7年前、秀和さんは同年代の人たちと青年会を発足したもの、若い人たちが集まらず解散してしまいました。しかし、若者がまちを支えていかなければと約4年前に再度青年会を立ち上げました。

軌道に乗ってきた矢先に震災があり、祭りに参加するまちの人々が減少。石材店を営んでいた秀和さんは「数年後には若いメンバーが中心となるため、神社の灯籠や墓石などの修復で忙しい中、昨年は知人などに声をかけてまわり、例大祭には約90名の担ぎ手が集まりました。秀和さんは「数年後には若いメンバーが中心となって、まちの発展のために活動できること」と語りました。

秀和さんは「これからもまちの活動を続けていき、活気あふれるまちにしていきたい」と抱負を語りました。

▼かじの葉会では焼き鳥やカキ氷の屋台を出し、盆踊り大会の手伝いをしました



▲星野さん親子。秀太郎さんは「これからもかじの葉会の活動を続けていき、活気あふれるまちにしていきたい」と抱負を語りました(写真左:秀和さん、右:秀太郎さん)

海が見える古民家 「清航館」で写真展開催

港のまち並みを残そと震災復興まちづくりを行っている

NPO法人中之作プロジェクト。

昨年から、中之作の古民家（清航館）の再生を行ってきました。1階部分の工事が年内に完了する予定となっており、「今後は多くの人に清航館を知つてもらうために」として、和やかにこだわったイベントを開催していきたい」と代表理事の豊田善幸さんは話します。

8月17日からは1週間に渡つて江名・中之作の風景をテーマとした写真展「撮つてみんかプロ



震災前に使用されていた建具に写真をつるし展示しました

者は「このまちには、こんな素晴らしい景色があるんだね」と撮影者それぞれの思いが込められました。町の風景写真を眺めていました。



応急給水の仕方の説明があり、震災に備えて体験する参加者

市総合防災訓練で 津波を想定した避難訓練実施

8月31日、一昨年の震災を踏まえ、「実践的訓練による災害対応力の強化」を目的とし、津波を想定した避難訓練を実施しました。

昨年は江名地区のみの開催でしたが、今回は実際に津波により浸水した小名浜地区沿岸域（江名、折戸、中之作、永崎、下神白、小名浜市街地）を対象に行されました。小名浜地区では1、811名が訓練に参加。避難完了後

には防災講話があり、「災害が起きたときの人の心理・行動」、「津波から避難する4つのポイント」が話されました。最後にアンケート調査が行われ、今後の訓練に役立っていくこととなっています。

現在工事が行われている部分は、今年度完了予定となっています。

江名港は、震災で岸壁や魚場は沈下・損壊し、防波堤は沈下及び消波ブロックと防波堤の工事が本格的に始まりました。沈下した部分のかさ上げや損壊部分の復旧、防波堤は飛散した消波ブロックを集めて再度利用し、不足分は新たに補充し復旧する工事が行われています。

江名港は、震災で岸壁や魚場は沈下・損壊し、防波堤は沈下及び消波ブロックと防波堤の工事が本格的に始まりました。沈下した部分のかさ上げや損壊部分の復旧、防波堤は飛散した消

江名港災害復旧工事
県小名浜港湾建設事務所

復興へ向けた動き



江名港災害復旧工事の様子

楽しみながら海に触れよう 磯の観察会 いわき地域環境科学会

いわき地域環境科学会主催の磯の観察会が8月10、11日に下神白の三崎前海岸で行われました。

海の恵みと怖さを知った上で楽しみながら海に触れてもらおうと、毎年行われてきた磯の観察会と鳴き砂調査。震災の影響で活動を中断していましたが昨年再開し、同海岸付近の放射線量の測定なども行っています。

今回は2日間で市内外から約200名が参加し、数班に分かれ会場内36カ所の放射線量を測定した後、海岸で地層の説明を受け、磯場の生物と海草を探集し観察しました。

その後、(いわき・ら・ら・ミュウ)内の研修室に移動し、放射線量の測定結果発表や磯の生物の不思議な行動の観察(ウニ・ヒトデの縄抜け、ヤドカリのヤド探し)、ムラサキガイを使っ

た水の浄化実験、海草を使ったお絵かきなどが行われました。

参加した子どもたちは「放射線量を自分たちで測ったり、カニを捕まえたりできて楽しかった」「今まで知らなかつたことをたくさん知ることができよかった」と笑顔を見せました。



測定の仕方を教わり、自らの手で放射線量を測りました



割り箸で作った簡易釣竿にえさを付けカニ釣りを楽しみました



「ヤドカリのヤド探し」では、初めて見る殻についていないヤドカリに興味津々

岩間地区

防災緑地ワークショッピング

まとめ



▲今後の岩間町のあり方について、真剣に協議する参加者のみなさん。図面には、様々な樹木や花の写真も



▼道路の勾配については、ダンボールを使って分かりやすく説明

7月28日、第4回岩間地区防災緑地ワークショップが勿来支所で開かれました。第1回から第3回までのワークショップをふまえ、最終回となつた第4回には、地域住民およそ15名が参加。第3回までは数班に分けて行われたワークショップですが、最終回では参加者全員がひとつのテーブルを囲み、基本計画図の最終案を使って意見交換がなされました。

ワークショップで出された意見をとりまとめた計画案は次

のとおりです。

■他地域の人たちにも立ち

寄つてもうえるような芸術活動を展開できる緑地として地域の活性化を図る。

芸術公園ゾーン

●岩間海岸を眺めることのできる見晴し台へ通じるスロープを設置。

●多目的広場は開放的なイメージとなるよう、安全を確保した上で高木の植栽を減少。

●震災を後世に伝えるための資料館を設置したいとの意見があることから、将来的に施設が整備される場合を想定して、緑地の一部にスペースを確保。

●津波被災を伝承するモニュメントを設置したいとの意見から、海側に「記憶の広場」を設置。

●津波の被害を後世に伝えるとともに、「犠牲者の慰霊の場」とする。被災した防潮堤をそのままの姿で県道沿いに遺す。

津波被災伝承ゾーン

●県道を渡らずに利用したいため、緑地の一部に駐車場を設置。

●地域間交流の場として利用でき、身近で愛着を感じられる緑地とする。

地域交流ゾーン

●墓地と調和した緑地にするため、墓参りなどの利用者に配慮して駐車場や園路を設置。

●地域住民が集うための休息施設がほしいとの要望から、芝生広場に四阿を設置。

なお、維持管理の問題については、継続的な活動を実施していくため、行政、住民、NPOだけでなく、ボランティアや企業の社会貢献などが必要であり、今後も多様な主体との連携や活動の継続性確保のため、協議を続けるべきとの認識を共有しました。



市総合防災訓練で津波を想定した避難訓練実施

▼植田小学校で行われた救出訓練の様子。瓦礫(がれき)の下敷きになつた人の救出法を学びました



▲6号バイパスへと繋がる避難階段へ避難する、佐穂町のみなさん

8月31日、市内各地で行われた市総合防災訓練。勿来地区では、小浜、佐糠、植田、錦、勿来の5地区から、およそ1,000名が参加しました。午前8時半、サイレンの吹鳴とともに、指定された津波避難場所や避難所へ一斉に向かう。元の小・中学校で防災講話が行われました。また、植田小学校では、勿来消防署による初期消火訓練や、救出・救護訓練も実施。地域がひとつとなつて、防災に対する意識を高めました。

楽しかった… 夏休みの思い出 特集

(7月24、25日) いわき防災サマー キャンプin勿来



◀「対決！バケツリレー」は、バケツにどんどん水を入れて、ボールを先に出し
たチームが勝利！



▶身近な物を使った応急手当の方法も学びました

錦公民館および勿来体育館で「いわき防災サマー キャンプ in 勿来」が開催されました。防災をテーマとした体験学習を通して、自ら考え、互いに助け合い、いわきの復興を担う子どもたちの防災意識を高めることを目的とした同キャンプ。勿来地区の小学生33名が参加し、2日間



▲「語り部さんのお話」では、市消防団の門馬俊治（としはる）さんから震災当時の実体験が話されました

錦公民館および勿来体育館で「いわき防災サマー キャンプ in 勿来」が開催されました。防災をテーマとした体験学習を通して、自ら考え、互いに助け合い、いわきの復興を担う子どもたちの防災意識を高めることを目的とした同キャンプ。勿来地区の小学生33名が参加し、2日間

を通して様々な防災訓練を体験。防災に対する知識を学びました。

(7月22日) 夏休み子ども映画会

植田公民館で開かれた「夏休み子ども映画会」では、10～20分のアニメ映画、計5本を上映。なかには地震や津波への対応をテーマとしたアニメも上映され、子どもたちは夢中でスクリーンを見入っていました。



▲子どもたちと保護者あわせて約90名が来場。夏休みの楽しい思い出となりました



この日の参加者は7名。場所も分かりやすくなった同スペースは、「きれいになって使いやすい」と利用者からも好評です

**笑顔いっぱい
初のサロモン活動**

新しくなった「なこそ交流スペース」で、8月1日、初のサロモン活動が行われました。市長寿介護課の安斎誠一さんを招き、シルバーリハビリ体操を実施。参加者は「以前の建物ではできなかった床に座つて行う体操もできるので嬉しい」と、笑顔で身体を動かしていました。

勿来の四季折々

今回のテーマは
勿来の夏を振り返る

◀ 海開き真っ最中の勿来海水浴場

震災後2度目となった、勿来海水浴場の海開き。今年は海の家もオープンし、7月15日から8月18日までの35日間で来場者数は約2万2千人と、昨年に比べて約2.6倍に。年々、勿来の海に活気が戻ってきています。



▶ 鮫川河川敷公園に咲いていたひまわり

7月に行われた「なこそ鮫川花火大会」では、多くの来場者で賑わった鮫川河川敷公園。8月には、ひまわりが大輪の花を咲かせていました。震災当時、津波で甚大な被害を受けたこの場所ですが、地元のみなさんの協力もあり、今では震災前と同様、市民の憩いの場となっています。



がんばれ！うえだ 植田町で盆踊り大会開催



8月15、16日の両日、植田駅前のバスターミナルで、第55回植田納涼市民盆踊り大会が開催されました。



▲16日は「勿来子供じゃんがら隊」による、じゃんがらの披露でスタート！



◀子どもたちが長船の列を作った風船割り大会。狙いを定め…そこだ！

いわき市津波被災住宅再建事業補助金の創設について

市では、東日本大震災の津波により滅失または損壊した住宅の再建費用の一部補助の申請を受付しています。
※すでに住宅を取得している方でも、対象となる方はさかのぼつて補助を行います。

〈対象者〉

- 平成23年3月11日時点において、東日本大震災の津波により被災した地域内の持ち家住居に居住していた方または同居していた親族の方
- 東日本大震災に係る津波により、居住していた持ち家住宅が、全壊、大規模半壊または半壊の被害を受け、住宅を解体した方（半壊については、やむを得ず住宅を解体した場合に限る）で、いわき市内に住宅を新たに建設または購入する方
- 防災団体移転促進事業およびかけ地近接等危険住宅移転事業の対象とならない方等

◆補助対象事業及び補助内容

| 補助対象事業 | 補助対象経費 | 1戸当たりの補助限度額 |
|--|--|-------------|
| 住宅建設等再建事業 | 住宅の建設、購入に係る金融機関からの借入金の利子に相当する額 | 153万円 |
| 住宅移転事業 | 住宅の移転に伴う家財道具の運搬等に要した経費 | 10万円 |
| 津波被災宅地防災対策事業（津波被災地域以外及び区画整理事業区域は対象となりません。） | 住宅の建設、購入に伴い、土地を0.5メートル以上盛土し、かさ上げする工事及びこれに付随する擁壁築造工事に要した経費の2分の1の額（※営利を目的とする貸家、アパートなどは対象外） | 119万円 |

◆事前予約の上、本庁1F生活再建市民総合案内窓口、小名浜支所、勿来支所、四倉支所、久之浜・大久支所の各窓口で申請してください。

〈事前予約・お問い合わせ〉市建築指導課 ☎0246-22-7516

震災語り部養成講座 震災を後世に伝える

震災の記憶と記録を伝える人材育成を目指し、7月25日、中央台公民館にて「震災語り部養成講座」が開講しました。

初回は基礎編として宮城県南三陸町語り部ガイドの後藤一磨氏を講師に、「震災から学ぶ・未来への歩み」と題して講演を行いました。被災体験を語るだけでなく、被災地の人の営みのなかにある“未来への光”を見せること、被災地以外の場所で現状を語り伝えることも大切な役割であると強調しました。

受講者は8月の知識編、9月の実践編を経て、被災地視察ツアーなどの語り部として活動する予定です。



「被災地の現状を伝えることは恥ずかしいことではない」と話す後藤さん

ふれあい通信 応急仮設住宅や雇用促進住宅のイベント紹介

中央台高久第一応急仮設住宅

●震災の科学を知るワークショップ

8月4日、長野県のNPO法人チルドレンズ・ミュージアム主催で、遊びのなかから震災や日常生活の科学を学ぶ「仮設ミュージアム」が開催されました。

地球の動きと地震など震災の科学などを、工作や日常生活にあるものを使って体験。例えば水と洗濯糊でスライムをつくり、それを地球のプレートに見立て、地震が起きるメカニズムなどを勉強しました。



参加者は様々な道具を使ったり、作ったりして楽しみながら学んでいました

相談コーナー

●各支所での弁護士による無料法律相談会（10月の日程）

勿来支所／10日（木）、四倉支所／15日（火）、小名浜支所／24日（木）
◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象。（要予約）
〈事前予約・お問い合わせ〉市広報広聴課 ☎0246-22-7438
相談時間／14:00～17:00の間で30分程度

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください！

- メールの方／furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→
- FAXの方／☎0246-26-5157
- おたよりの方／左記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!!

いわきあいあい 検索

Click

表紙の人

沼ノ内子ども獅子舞（左から）

- 鈴木 大翔くん（藤間中学校1年生）
- 有働 凜太郎くん（豊間小学校5年生）
- 鈴木 太陽くん（豊間小学校6年生）



3人は獅子祭りに向けて、暑い中練習を続けてきました。

笛の音の聞き分けなど難しいところもありましたが、無事に舞うことが出来ました。

今回で舞手を卒業する鈴木大翔君は来年から指導者として獅子舞をサポートします。